



大阪府高等学校
生物教育研究会

協力会だより

令和 4(2022)年 5 月 2 日
第 2 6 号

ごあいさつ

大阪府高等学校生物教育研究会協力会

会長 大島 みどり

協力会会員のみなさま、ご無沙汰しております。

また、新しく協力会会員になられたみなさま、おめでとうございます。

私たち大阪府生物教育研究会協力会会員は、みなさまのご入会を心より歓迎いたします。

みなさま方もよくご存知とは存じますが、現役の先生や生徒を応援する全国でも類を見ないこのシステムは、大阪の先輩方の熱い想いで発足し、現在に引き継がれているものです。末長く繋いで行きましよう。

日々報道されるウクライナの状況には、どんな言葉を使っても言い表せない心の痛みを感じています。

私事ですが、一昨年亡くなった私の母は、高等女学校 5 年生の時に、大阪大空襲で母を奪われました。あまりに辛い経験だったためか、私たちにも多くを語らなかつた母ですが、その頃の母の心に思いを馳せている日々、人命・人権の蹂躪は決して許してはならないとの思いを新たにいたしました。

一昨年のご挨拶には、新型コロナウイルスについて、「未曾有の」という言葉を使わせて頂きました。昨年は「日本でもワクチン接種が動き出しました。」と書かせていただきました。

世界が「With the coronavirus」にシフトする中で、「集団免疫と個人」について考え続けた最近の日々でした。

暗い話で始めてしまいましたが、明るい話をお届けしましょう。

後ほどご報告させていただきますが、協力会会員で、研究会元会長の足立 堯先生が昨年秋の叙勲で受勲されました。心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。先輩のみなさまがお元気で活躍なさっていることは、私たち後輩の大きな励みとなっています。

また、最後になりましたが、大阪市立の高等学校が大阪府に移管されましたね。

支援学校は一足先、2016 年に移管されております。何事にも賛否両論はあるでしょうが、生物教育研究会では従来から府市私協力しており、現在、現役の皆様は柴原会長の下、全国大会に向けて一体となつてご準備くださっています。とても楽しみにしております。

及ばずながら協力会は、できる限りの協力をさせていただく所存でございます。

コロナ下 3 年目の令和 4 (2022) 年度が始まりました

研究会の総会と同時に開催される協力会の総会ですが、令和 2 (2020) 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の伴い中止されました。また令和 3 (2021) 年度は、対面での開催を模索はしてはいましたが、少人数だけが集まり、原則オンラインでの開催となりました。結果的には、協力会の先生方がほとんど参

加されていない寂しいものになりました。

本来でしたらこの場所は、会長の挨拶に続けて、昨年度の活動報告を掲載ところなのですが、協力会の活動としては2回の「協力会だより」の発行と、研究会への10万円の寄付以外、何の活動もできていません。

令和4(2022)度が始まりました。コロナウイルス感染症の脅威は完全には払拭されていませんが、今年度はたぶん After Corona 元年として、徐々に皆が集まっての活動が進んでいくことになると思います。令和5(2023)年夏の日本生物教育会大阪大会の開催に向けても、「集まって、協議し、遂行していく」必要が強まっていくものと思います。協力会としても、寄付以外の何らかの活動を再開あるいは実施できないかを模索していく1年になるものと思います。協力会会員の先生方のさらなるご支援ご協力を改めてお願いしたいと考えております。

(事務局 北浦・中井記)

協力会会員の足立 堯先生が、秋の叙勲を受けられました

令和3(2021)年秋の叙勲で、協力会会員で研究会の元会長である足立 堯先生が瑞宝小受章を授章されました。本当におめでとうございます。足立先生には、叙勲のご挨拶をというお願いをさせていただきましたが、ご辞退の意向が強く、かわりに近況報告のおたよりをいただきました。おたよりの中で叙勲には触れておられませんが、ご退職後の活躍がよくわかるものになっています。足立先生の近況報告は以下の通りです。

近 況 報 告

定年退職して30年近くなり、協力会の先生方の多くは存じ上げない年齢になりました。事務局からご案内をいただきましたので、近況を報告させていただきます。

40年前、在職中に寝屋川市の市制30周年記念事業として「寝屋川市の自然」の編纂に携わり、そのとき調査執筆に関わったメンバーの有志で2000年に「寝屋川市自然を学ぶ会」を立ち上げました。以来多くの市民の方や子どもたちと身近な自然の観察会・自然教室などを実施し、ガイドブックの編集・発行などを行ってきました。

<自然はおもしろい>を合言葉に野草・樹木・昆虫・野鳥などの生き物と出会い、自然環境の理解に努めてきました。

この市民活動が社会に認知され、地域に密着した活動により自然に関わり学ぶ楽しさを続けてきた活動は、人々が自然への関心を高めるきっかけになるとともに、次世代を担う子供たちの環境意識の醸成に貢献した>という評価を頂き、この会が2015年に大阪府から「おおさか環境賞」を、2019年には環境省より地域環境保全功労者として「環境大臣表彰」を受けました。

これと並行して行政主導の自然資料施設・自然体験学習室の運営にも携わり、自然塾や大人向け・子ども向けの各種講座を開講してきました。残念ながら現在は、コロナ禍で活動の停止や規模縮小などを余儀なくされています。(足立 堯 先生記)

今年度研究会ならびに協力会の総会について

今年度の大阪府高等学校生物教育研究会の総会について、研究会事務局の大阪教育大学附属高校池田校舎岡本元達先生から案内をいただきました。現在のところ、下記の予定通り実施することになっております。協力会では10分程度時間をいただき、協力会の総会を行うとともに、協力会から研究会への補助金の贈呈式を行いたいと考えております。ぜひ万障繰り合わせの上、ご参集いただければと思っております。

日 時 令和4(2022)年6月3日(金) 午後2時30分より
場 所 大阪立天王寺高校(会場未定ですが、天王寺高校入り口に表示されます)
内 容 14:30～ 大阪府高等学校生物教育研究会 総会
15:00～ 講演会 藤枝 秀樹先生(文部科学省初等中等教育局視学官)
演題「高等学校生物における新学習指導要領改訂のポイントと学習評価」
終了後すぐ 大阪府高等学校生物教育研究会協力会(本会) 総会

なお(今年度は大丈夫と思いますが)、コロナウイルス感染症の関係で、総会がオンライン開催になったり、中止になったりする可能性もあります。昨年同様、協力会に別途ご案内を差し上げる余力はございません。開催形式の変化や会場の変更などについては、研究会のHP(<http://seiken.sub.jp>)等でご確認ください。

日本生物教育会全国大会2021(長野大会)は!

日本生物教育会の全国大会(長野大会)は、オンラインで開催されました。長野県の先生方には、大変厳しい決断であったと思いますし、エクスカッションを含め大会を楽しみにしておられた先生方には非常に残念な決定ですが、今般の状況を踏まえると、致し方ないことかと思っております。

開催日程 2021年8月5～7日

開催場所 オンライン

大会主題 フィールドの魅力、再発見～信濃路から自然を見つめる生物教育～

記念講演 生物多様性の世界的ホットスポットの中のホットスポット～信州～

信州大学教授 東城 幸治 先生

シンポジウム 信州の生物多様性をいかに守っていくのか。

研究発表 1. 教材・実験観察に関するもの 2. 生物教育・指導法に関するもの

3. 自然・環境教育に関するもの 4. 学術研究に関するもの

の4分科会の予定でしたが、1つのズームでまとめられました。

私事ですが、ちょうど免許更新の研修とぶつかり、かろうじて一部の研究発表に参加しただけになりました。その後、長野県から記念誌や資料を送っていただきました。ありがとうございました。

今年は北海道大会ですが、まだHPで告知が出ていません(4月20日現在)。最近のコロナの状態を考えると、対面で感染対策をして実施されるのではないかと考えているのですが、北海道へ行ってみたいと思うのは私だけではないと思います。(北浦記)

日本生物教育会全国大会 2022 (北海道大会) は？

日本生物教育会の全国大会(北海道大会)の開催については、先の北浦事務局長の報告にもありますように現在「近日公開を開始します」という状況で、開催形態については未定です。一応すでに公開されている概要によると次のようになっています。くわしくは、北海道生物教育会 (hokkaido-c.ed.jp)ホームページ(hokkaido-c.ed.jp)あるいは研究会のホームページ (<http://seiken.sub.jp>) でご確認ください。2023年はいよいよ大阪です。OB・OGの先生方も、下見を兼ねて、北海道大会に参加してみませんか？

開催日程 2022年8月2～5日(火～金) (大会の主要部分は8月3～4日)

開催場所 市立札幌開成中等教育学校 (北海道札幌市東区北22条東21丁目1-1)

大会主題 「新たな未来を築く理科教育」－科学的に探究する資質・能力を育成するために－

記念講演・シンポジウム・研究発表・研究協議・現地研修などについては、記載はありませんでした。

諸連絡

1. 今年度も続いて会員登録(会費振り込み)をお願いします。

会費振り込み用紙を同封しますので、6月上旬ころまでに振り込んでいただきますよう、よろしくお祈りします。会費は正会員3,000円、賛助会員2,000円ですが、寄付を上乗せして振り込んでいただければ大いに助かります。昨年度寄付をいただいた先生方には、重ねて御礼申し上げます。なお、振込用紙の連絡欄に近況をお書きください。次号に掲載いたします。

2. 令和3(2021)年『大阪府高等学校生物教育研究会協力会』会員

(R4.3.末現在、令和3年度会費納入者)

<正会員> (記載順はアイウエオ順)

足立 堯	石崎 英男	井上 慎一	江坂 高志	大江 進	大島 みどり
奥本 隆	小畑 和人	加賀 友子	川崎 智郎	河添 純子	北浦 隆生
木村 進	河野 成孝	佐々木 洋一	柴原 信彦	澄川 冬彦	竹林 隆昭
橘 淳治	田中 正視	辻本 昭信	寺岡 正裕	富田 織江	中井 一郎
長尾 祐司	仲田 敏弘	中野 俊勝	平岡 誠志	廣瀬 祐司	福坂 邦男
古久保 俊子	牧野 修司	松田 仁志	安井 博司	山住 一郎	吉川 浩
和佐 眞宏	渡邊 勉治郎				(以上38名)

<賛助会員>

幸川 由美子 中村 哲也 (以上2名)

<元会員> (昨年度会費未納者も含みます)

浅野 素雄	山田 惇	山田 孝子	寺井 見一	原田 彰	三木 正士
折井 亮夫	西河 巖	中村 武男	柿迫 修	吉村 烈	江藤 昌晴
奥野 善彦	杉山 友重	今安 達也	萱村 善彦	松本 弘	

<物故会員>

佐古 廣衛 原本 哲也 多々 浩爾 中原 圓 平賀 正男 梶村 重次

3. 令和3(2021)年『大阪府高等学校生物教育研究会協力会』役員

- ・会長……大島 みどり ・副会長……井上 慎一
- ・幹事……北浦 隆生, 中井 一郎, 橘 淳治
- ・賛助会員代表……柴原 信彦 (研究会会長)
- ・事務局 (事務局長……北浦 隆生, 会計……中井 一郎, 会計監査……橘 淳治)

4. 事務局より

私、北浦は、令和4年3月末で、追手門学院大手前高校を退職し、現在、無職となり自宅警備員（孫の子守係兼任）をしております。初めて失業保険を受けることになりました。年度末より風邪を悪化させ、咳が止まらなくなりました。抗体検査やPCR検査でコロナ陰性ではありましたが、一向に回復する様子がなく、咳喘息(?)状態で現在に至っております。少し症状は良いほうに向かっていますが、もうしばらくかかりそうです。皆様におかれましても健康にご留意いただきご活躍をお祈りしております。中井先生にはいろいろご迷惑をおかけしますが、よろしく願いいたします。(北浦記)

私、中井も、北浦先生同様昨年に65歳を迎え、高齢者の仲間入りをしました。2022年3月末で、北浦先生同様に、追手門学院大手前高等学校の特別常勤講師を退任しました。河内長野市在住の北浦先生と違い通勤距離が短いこともあって、週3回程度の非常勤を希望しましたが、4月から「教科指導業務委託」というよくわからない形態で勤務することになりました。中身は非常勤講師と変わらず、週3回(月～水)12時間の授業なのですが、時々土曜日の授業があったり、(自分で持ち込んだものなのでしかたがないのですが)高津高校と連携した台湾・韓国との(環境学習に関する)交流も担当しています。月～水曜日でしたら追手門大手前に出勤しておりますので、何かあればこちらまでご連絡ください。(中井記)

事務局へのお問い合わせは、追手門学院大手前高等学校(06-6942-2235) 中井一郎

理科生物科にもう一人非常勤で中井先生がおられます。

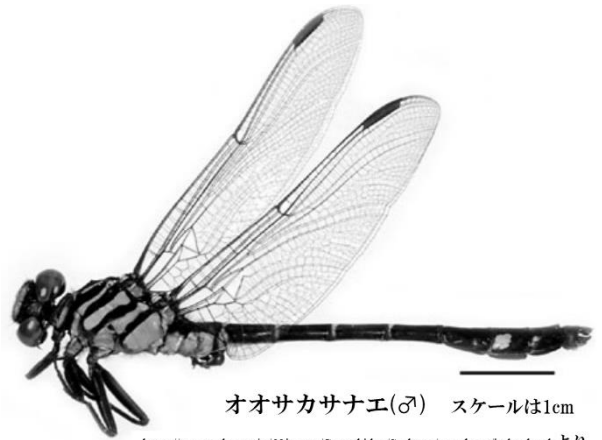
または、北浦 隆生 (586-0007 河内長野市松ヶ丘東町 1349-1)

中井 一郎 (545-0001 阿倍野区天王寺町北 3-4-15)までご連絡ください。

ページが余ったので、埋め草として次のページに大阪の生き物ネタを掲載しました。

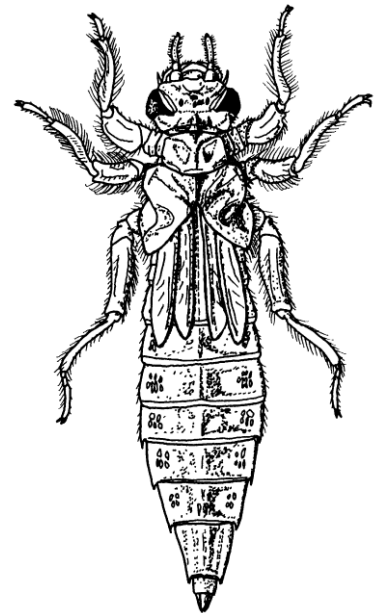
大阪の生き物 1 **オオサカサナエ** *Stylurus annulatus*

オオサカサナエは、昆虫の中では比較的珍しく「大阪」の名前がついたサナエトンボ科のトンボの仲間です。日本では、滋賀、京都、大阪、奈良、三重、岐阜でのみ記録があり、海外では朝鮮半島、中国東北部、ウスリーに分布しています。おもに琵琶湖の砂質の湖畔部や琵琶湖・淀川水系の比較的大きな河川の中下流域で見られ、やご(幼虫)は水深 50cm~10m の砂泥底部で見られます。三重県の雲出川水系での記録もあります。成虫の体長は 56~63mm、終齢幼虫の体長は 35mm 程度と、中型のサナエトンボです。とは言え、筆者もまだ生体を見たことはありません。日本では絶滅危惧Ⅱ類に分類される希少種です。



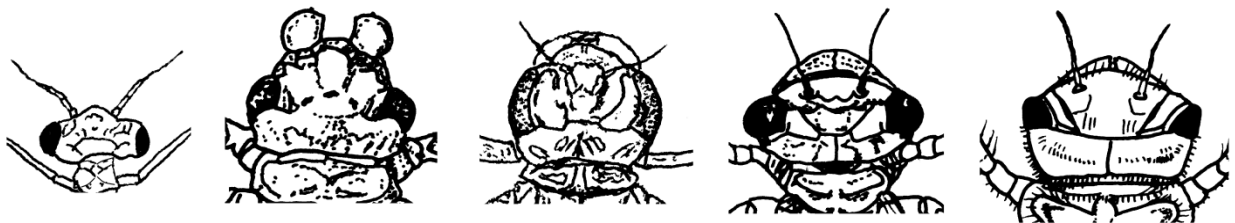
オオサカサナエ(♂) スケールは1cm
<https://www.odonata.jp/03image/Gomphidae/Stylurus/annulatus/index.html> より

サナエトンボは、名の通り「早苗」の時期、つまり田植えの時期やその直後ぐらいに羽化する種が多く、羽化期はふつう 5月から6月の初めごろですが、オオサカサナエは最も羽化のピークが遅く、「夏から秋に成虫が出現」とか「7・8月に羽化」と書かれています。



オオサカサナエ やご

サナエトンボ科の幼虫(やご)には、共通の特徴があります。ふつうトンボのヤゴの触角は糸状なのですがサナエトンボ科のやごの触角は第2節が膨大し、棍棒状から軍配状をしています。大阪の河川でよく見かけるコオニヤンマ(名前はヤンマですがサナエトンボ科です)触角第2節の膨大が著しく、完全な軍配状で、触角に見えないほどです。しかし、オオサカサナエのやごは、その中では比較的スリムな棍棒状ですが、糸状には見えませんよね。(中井記)



トンボ類の頭部の比較：左から、オオアイトトンボ(アイトトンボ科)、コオニヤンマ(サナエトンボ科)、クロスジギンヤンマ(ヤンマ科)、タイリクアカネ(トンボ科)、シオカラトンボ(トンボ科)